

平成 26 年度度茨城県高等学校文化連盟将棋部会第 2 回理事会並びに研究協議会

平成 27 年 1 月 27 日 (火)
於 水戸第一高等学校

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

- ① 平成 26 年度事業報告（中間報告）及び反省
- ② 平成 26 年度会計決算中間報告（諸会計全般）
- ③ 役員改選・将棋部会事務局制に関するこれまでの流れの確認
- ④ 規約改正について
（茨城県高等学校将棋部会規約／茨城県高等学校将棋連盟主催大会規定）
- ⑤ 平成 27 年度役員改選案の検討
- ⑥ 平成 27 年度事業計画案の検討
- ⑦ 平成 27 年度会計予算案の検討
- ⑧ 第 38 回全国高総文祭茨城大会（いばらき総文 2014）将棋部門の反省
- ⑨ 将棋部会サイトについて
- ⑩ 40 周年記念誌について
- ⑪ 平成 26 年度「茨城県高等学校文化連盟賞」表彰候補者の推薦について
- ⑫ 将棋の指導方法について（研究協議）
- ⑬ その他

4 閉会

平成26年度 茨城県高等学校文化連盟将棋部会事業

期 日	実 施 内 容	摘 要
4月17日(木)	平成26年度茨高文連将棋部会総会 及び第1回理事会 (水戸一高)	平成25年度事業報告, 会計決算報告会計監査報告 平成26年度役員改選 平成26年度事業計画 平成26年度会計予算案 全国高等学校将棋選手権大会(第38回全国総合文化祭)の茨城県代表決定戦要項審議及び発送 全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦準備
5月9日(金) ～10日(土)	第38回全国高等学校総合文化祭将棋部門(第50回全国高等学校将棋選手権大会)茨城県代表決定戦(会場 水戸一高)	茨城県代表 団 体 江戸川学園取手(男子)/鹿島(女子) 男子個人 1位 上村友大(太田一)・2位 三村廉(日立一) 3位 山崎英幸(翔洋)・4位 中谷祥也(牛久栄進) 女子個人 1位 岩堀佳菜(土浦一)・2位 足立美桜(水戸葵陵) 3位 崔恵仁(水戸葵陵)・4位 佐々木春香(大洗)
6月14日(土)	第27回全国高校将棋竜王戦茨城県大会(会場 県民文化センター)	優勝 (茨城県代表) 上村友大(太田一)
6月23日(月)	第38回全国高等学校総合文化祭結団式	高文連各部門の茨城県代表が招集される
6月28日(土)	全国高等学校総合文化祭将棋強化会	県代表権獲得者を茨城アマ強豪に指導願う
7月27日(日)～ 28日(月)【24～25日は水戸一高で掲示物等を作成, 26日は会場で前日準備】	第38回全国高等学校総合文化祭将棋部門(第50回全国高等学校将棋選手権大会) (会場 茨城県水戸市・茨城県武道館)	茨城県代表出場 団 体 江戸川学園取手/鹿島【共に予選敗退】 男子個人 山崎(ベスト16) / 中谷・三村【本戦出場】 / 上村【予選敗退】 女子個人 岩堀(ベスト16) / 足立・崔・佐々木【予選敗退】
8月24日(日) ～25日(月)	第27回全国高校将棋竜王戦 (会場 福岡県福岡市電気ビル共創館)	茨城県代表出場 上村友大(太田一)全国3位
10月4日(土)	第5回段級位認定大会(第9回県総文祭大会) (会場 石岡市民会館)	A級 大東純(水戸一) B級 細谷佳正(水戸一) C級 富澤 玲(日立商) D級 滑川佳樹(日立商)
11月13日(木)	第23回全国高校文化連盟将棋新人大会 兼 第25回関東高校文化連盟将棋専門部選手権大会茨城県代表決定戦 (会場 石岡市民会館)	男子1位 山崎英幸(翔洋) / 2位 大東純(水戸一) 3位 上村友大(太田一) / 4位 三村廉(日立一) 女子1位 岩堀佳菜(土浦一) / 2位 笠野里緒(鹿島) 3位 笠井玲奈(鹿島) / 4位 保立祐希(鹿島)
12月20日(土)～ 21日(日)	第25回関東高校文化連盟将棋専門部選手権大会(会場 埼玉県さいたま市With You さいたま(埼玉県男女共同社会参画センター))	茨城県代表出場 男子 山崎(翔洋)・大東(水一)・上村(太田一)・三村(日一) 女子 岩堀(土浦一)・笠野(鹿島)・笠井(鹿島)・保立(鹿島) 上村・岩堀は5位/会長杯で笠野1位, 山崎2位
1月29日(木) ～1月31日(土)	第23回全国高校文化連盟将棋新人大会 (会場 新潟県・ホテルオークラ新潟)	茨城県代表出場 男子 2名 山崎(翔洋)・大東(水戸一) 女子 4名 岩堀(土浦一)・笠野(鹿島) 笠井(鹿島)・保立(鹿島) 山崎は全国3位・岩堀は全国5位
1月27日(火)	第2回理事会 (水戸一高)	平成26年度事業中間報告, 会計決算中間報告 平成27年度役員改選案, 事業計画案, 予算案

平成27年度 茨城県高等学校文化連盟将棋部会事業(案)

期 日	実 施 内 容	摘 要
4月16日(木)	平成27年度茨高文連将棋部会総会 及び第1回理事会 (水戸一高)	平成25年度事業報告, 会計決算報告会計監査報告 平成26年度役員改選 平成26年度事業計画 平成26年度会計予算案 全国高等学校将棋選手権大会(第38回全国総合文化祭)の茨城県代表決定戦要項審議及び発送 全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦準備
5月8日(金) ～9日(土)	第39回全国高等学校総合文化祭将棋部門(第51回全国高等学校将棋選手権大会)茨城県代表決定戦(会場 水戸一高)	茨城県代表 団 体 男子個人 女子個人
6月13日(土)	第28回全国高校将棋竜王戦茨城県大会(会場 水戸一高)	優勝 (茨城県代表)
7月28日(火) ～29日(水)	第39回全国高等学校総合文化祭将棋選手権 (会場 滋賀県米原市・滋賀県立文化産業交流会館)	茨城県代表出場 団 体 男子個人 女子個人
8月 日() ～ 日()	第28回全国高校将棋竜王戦 (会場 福岡県)	茨城県代表出場 男子個人
10月 3日 (土)	第10回県総文祭大会(第6回段級位認定大会) (会場 石岡市民会館)	誤認を避けるため公文書には段級位の文言を書かない
11月13日(金)	第24回全国高校文化連盟将棋新人大会 兼 第26回関東高校文化連盟将棋専門部選手権大会茨城県代表決定戦 (会場 未定)	男子1位 2位 3位 4位 女子1位 2位 3位 4位
12月20日(日)	第26回関東高校文化連盟将棋専門部選手権大会(会場 群馬県)	茨城県代表出場 男子4名 女子4名
1月28日(木) ～1月30日(土)	第24回全国高校文化連盟将棋新人大会 (会場 熊本県阿蘇市・阿蘇の司ビラパークホテル)	茨城県代表出場 男子 2名 女子 4名
1月26日(火)	第2回理事会 (水戸一高)	平成27年度事業中間報告, 会計決算中間報告 平成28年度役員改選案, 事業計画案, 予算案

平成 26 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

役 職	氏 名	勤 務 校	大 会 担 当	上 部 機 関 役 職
会 長	生田目正直	高萩清松高等学校 (学校長)	茨城県全大会 最高責任者 関係各方面への 連絡通知の統括	全国高等学校文化連盟将棋部会代表
副会長	鈴木 康司	茨城工業高専	各大会賞状準備	
事務局 (幹事)	矢須 雅進 藤崎 正輝 大山 雅道 吉田 真弘 矢須 雅進 関根理恵子 矢須 雅進	石岡第一高等学校 大洗高等学校 水戸第一高等学校 竜ヶ崎第一高等学校 石岡第一高等学校 日立工業高校 石岡第一高等学校	事務局長 次長/夏季大会(竜王戦) 春季大会 段級位認定大会 秋季大会(新人戦) 会計 書記	茨城県高等学校文化連盟将棋部会理事 関東地区高等学校文化連盟将棋部会理事
監 査	今井 健二 小賀柳一	水戸葵陵高等学校 水城高等学校		
理 事 【学事録 順に配列】	皆藤新一 鈴木純子 関根理恵子 中村秀子 中郡久夫 大山雅道 山田健二 櫻井三夫 藤崎正輝 黒澤義生 前川匡史 幕内研司 矢須雅進 吉田真弘 坂入勝雄 保護者 増淵禎志 佐藤康 早川大祐 原健一 宮城晶軌 今井健二 出口洋一 江幡収 安齊隆 豊島雪乃 清水信行 桑原昭之	茨城工業高専 日立第一高等学校 日立工業高等学校 日立商業高等学校 太田第一高等学校 水戸第一高等学校 緑岡高等学校 海洋高等学校 大洗高等学校 波崎高等学校 鹿島高等学校 土浦第一高等学校 石岡第一高等学校 竜ヶ崎第一高等学校 竹園高等学校 牛久栄進高等学校 古河第三高等学校 並木中等教育学校 翔洋学園高等学校 茨城高等学校 水城高等学校 水戸葵陵高等学校 清真高等学校 霞ヶ浦高等学校 土浦日大高等学校 土浦日大中等教育学校 東洋大牛久高等学校 江戸川学園取手		
顧 問				

平成 27 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員（案）

役 職	氏 名	勤 務 校	大 会 担 当	上 部 機 関 役 職
会 長		高等学校 (学校長)	茨城県全大会最高責任者 関係各方面への連絡 通知の統括	全国高等学校文化連盟将棋部会代表
副会長		竹園高等学校	各大会賞状準備	
事務局 (幹事)	増渕禎志 中郡久夫 桑原昭之 矢須 雅進 佐藤康	古河第三高等学校 太田第一高等学校 江戸川学園取手 石岡第一高等学校 海洋高等学校 緑岡高等学校 並木中等学校 緑岡高等学校	事務局長 事務局次長 夏季大会（竜王戦） 春季大会 総文祭大会 秋季大会（新人戦） 会計 書記	茨城県高等学校文化連盟将棋部会理事 関東地区高等学校文化連盟将棋部会理事
監 査		日立第一高等学校 日立商業高等学校		
審判員	藤崎 正輝		ルール上の最終判断	
理 事 【学事録 順に配列】		茨城工業高専 日立第一高等学校 日立工業高等学校 日立商業高等学校 太田第一高等学校 水戸第一高等学校 緑岡高等学校 海洋高等学校 大洗高等学校 鹿島高等学校 土浦第一高等学校 石岡第一高等学校 竜ヶ崎第一高等学校 竹園高等学校 古河第三高等学校 並木中等教育学校 翔洋学園高等学校 茨城高等学校 水城高等学校 水戸葵陵高等学校 清真高等学校 霞ヶ浦高等学校 土浦日大高等学校 土浦日大中等教育学校 東洋大牛久高等学校 江戸川学園取手		
顧 問				

○平成 27 年度以降の事務局制度について【平成 27 年 1 月 27 日現在、これが最終的なものになっています】

平成 26 年度の事務局長、事務局次長は、平成 27 年度は将棋部会に確実に来られるかは分からない。何校か打診したが、事務局を引き受けてくださる学校がない。現在の、「やれる人がやる」というシステムに限界がきたと考えられる。従って「総文祭が終了した平成 27 年度以降は事務局を輪番制に切り換えたい」と提案して了解を得た。新役員は平成 26 年度秋季大会顧問会議で決定した。

1. 輪番制について

茨城県高等学校文化連盟将棋部会に関する職務をいくつかの係に分け、輪番制で担当し、将棋部会加入校の負担の公平化を図る。

2. 分担する職務について

将棋部会加入校を、事務局担当校と試合運営主要担当校の 2 グループに分ける。主要な担当は次のようにする。

○事務局担当校グループ（原則として県立高等学校等）

- ・事務局長、事務局次長と大会運営担当校（春季大会担当・竜王戦担当・総文祭〔段級位認定〕大会担当・秋季大会担当の計 4 校）、会計（1 名）、書記（1 名）、監査（2 名）を担当する。理事会資料の役員一覧に記名される係はこのグループが担当する。ただし、事務局長校だけは将棋部会顧問を 1 年以上経験した学校とし、新規加入する学校が事務局長校となる順番である時は、次の順番の学校が事務局長校を先につとめるものとする。
- ・大会運営担当校は各大会で準備する要項や、対戦表、記録用個票等該当大会のみで使用するものを準備すること、大会全体を采配すること、大会の記録を整理して事務局長に届け、事務局長が定められた日までに上位大会（全国・関東）事務局にデータの提出ができるようにすることを職務とする。

○試合運営主要担当校グループ（原則として私立高等学校等）

- ・事務局担当校グループが担当する職務以外の職務はこのグループが全て担当する。試合に必要な棋具（将棋盤・将棋駒・試合用時計〔電池を含む〕）と、その他の試合用品（文房具・賞状・賞状押印用事務局印・試合用賞品・試合運営用コンピュータ等）を管理する。管理には、試合日以外の管理と試合当日の試合会場への運搬、試合会場から管理場所への運搬を含む。管理場所は該当校の校内を原則とする。各大会で準備する要項や、対戦表、記録用個票等は、事務局担当校グループの大会担当校が準備するが、各大会で共通して用いる道具類は試合運営主要担当校グループが担当することを原則とする。
- ・試合当日は大会の各階級・各組の責任者として大会運営担当校に協力し、担当階級・各組の結果を大会運営担当校に報告する。
- ・試合運営用コンピュータは平成 26 年度中までに部会で購入することを原則とするが、予算的に間に合わなかった場合は該当校内で調達する。

3. 事務局及び試合運営主要担当の担当者について

事務局及び試合運営主要担当を務めるのは該当校に勤務する教員に限定し、保護者等が引率する加入校の場合は、事務局等の引き受けは輪番の次の学校に回す。将棋部会加入校教員であっても、私立学校等は学校長から役員引き受けを断わる職務命令が出されていることがあるため、輪番事務局グループからは除き、試合運営主要担当校グループに分類することを原則とする。

4. 事務局等予定校の不加入の場合について

決定した予定校（事務局担当校及び試合運営主要担当校のどちらも）が、次年度に将棋部会に加入しなかった場合は、その次の学校番号の将棋部会加入校を担当校として順次回す。この加入しなかった学校が次年度以降に再度加入した場合は、過年度分として事務局を引き受けるものとする。将棋部会に加入しないことで、事務局を務めなかった学校が遡って事務局を務めるのは 3 年を限度とする。

5. 平成 27 年度以降は 1 年単位で、学校が学事録に掲載されている順に回す。

6. 審判員について

審判員という役員を新設し、将棋の判断に関することは新設する審判員に任せる。将棋部会事務局輪番制導入にともない、将棋未経験者が事務局入りする可能性が高まった。将棋未経験者でも将棋部会の事務局ができるようにするのが目的である。審判員は、将棋部会内で将棋に詳しい若干名を充てることとする。審判員は固定制として事務局等の役員及び大会担当からは外す。

将棋部会顧問会議・平成27年度事務局検討資料

2014.11.13

平成26年度茨城県高校将棋部会に加入している学校(2014学事録順に配列)

1	茨城高専	A	D
2	日立一	A	E
3	日立工	A	D
4	日立商	A	E
5	太田一	A	E
6	水戸一	A	D
7	緑岡	A	E
8	海洋	A	E
9	大洗	A	D
10	鹿島	A	D
11	波崎	C	
12	土浦一	A	D
13	石岡一	A	D
14	竜ヶ崎一	A	D
15	牛久栄進	C	
16	竹園	A	E
17	古河三	A	E
18	並木中等	A	E
19	翔洋学園	B	G
20	茨城	B	G
21	水城	B	F
22	水戸葵陵	B	F
23	清真	B	G
24	霞ヶ浦	B	G
25	土浦日大	B	G
26	土浦日大中等	B	G
27	東洋大牛久	B	G
28	江戸川取手	A	E

1	茨城高専	A	D
3	日立工	A	D
6	水戸一	A	D
9	大洗	A	D
10	鹿島	A	D
12	土浦一	A	D
13	石岡一	A	D
14	竜ヶ崎一	A	D
2	日立一	A	E
4	日立商	A	E
5	太田一	A	E
7	緑岡	A	E
8	海洋	A	E
16	竹園	A	E
17	古河三	A	E
18	並木中等	A	E
28	江戸川取手	A	E
21	水城	B	F
22	水戸葵陵	B	F
19	翔洋学園	B	G
20	茨城	B	G
23	清真	B	G
24	霞ヶ浦	B	G
25	土浦日大	B	G
26	土浦日大中等	B	G
27	東洋大牛久	B	G
11	波崎	C	
15	牛久栄進	C	

A	17	D	8
B	9	E	9
C	2	F	2
		G	7
合計	28	合計	26

A→今までの顧問会議でAグループ(事務局等担当)となっている学校。

B→今までの顧問会議でBグループ(試合運営主要担当及び物品管理等担当)となっている学校。

C→平成27年度茨城県高校将棋部会に加入が見込めない学校

Aは原則として県立高校、Bは原則として私立学校とするが、諸般の事情で難しい場合、

該当校からの申し出により、BグループからAグループに移ることを認めた。

D→上記の学校が平成27年度に将棋部会に加入する場合、役員校及び担当校選出の対象外を原則とする。

E→上記の学校が平成27年度に将棋部会に加入する場合、このグループから役員校と担当校を選ぶ。

F→上記の学校が平成27年度に将棋部会に加入する場合、試合運営担当校物品管理担当校選出の対象外を原則とする。

G→上記の学校が平成27年度に将棋部会に加入する場合、このグループから試合運営担当校物品管理担当校を選出する。

○事務局等担当(Eから選ぶ)

副会長	役員	1
事務局長	役員	1
事務局次長	役員	1
会計	役員	1
監査	役員	2
書記	役員	1
春季大会	大会	1
竜王戦	大会	1
県総文祭	大会	1
秋季大会	大会	1

○試合運営担当校・物品管理担当校担当(Gから選ぶ)

- 1 「秋季大会→秋季大会→竜王戦」の機具類管理、運搬
- 2 「竜王戦→県総文祭→秋季大会」の機具類管理、運搬

※「1」「2」とも、対局時計とビニール盤・駒を相当運ぶので複数選出が望ましい。また年度末に機具類の購入を考えている。

※Eの数が9、必要数が11なのでどこかは比較的負担が軽いものとの兼任とするか？

将棋部会第2回理事会・平成27年度以降の事務局及び担当(役員・大会)について

2015.1.27

平成26年度茨城県高校将棋部会に加入している学校(2014学事録順に配列)

A 事務局等担当グループ

大洗がH27、H28に審判を担当したとき

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	16	17	18	28
	茨城高専	日立一	日立工	日立商	太田一	水戸一	緑岡	海洋	大洗	鹿島	土浦一	石岡一	竜ヶ崎一	竹園	古河三	並木中等	江戸川取手
H27役員		監査		監査	事務局次長		書記		審判					副会長	事務局長	会計	
H27大会担当							秋季大会	県総文祭					春季大会				竜王戦
H28役員			監査		監査	事務局次長		書記	審判						副会長	事務局長	会計
H28大会担当	竜王戦							秋季大会		県総文祭			春季大会				
H29役員	会計			監査		監査	事務局次長		書記							副会長	事務局長
H29大会担当		竜王戦							県総文祭	秋季大会				春季大会			
H30役員	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記							副会長
H30大会担当			竜王戦						秋季大会		県総文祭				春季大会		
H31役員	副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記						
H31大会担当				竜王戦						秋季大会	県総文祭					春季大会	
H32役員		副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記					
H32大会担当					竜王戦						秋季大会	県総文祭					春季大会
H33役員			副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記				
H33大会担当	春季大会					竜王戦						秋季大会	県総文祭				
H34役員				副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記			
H34大会担当		春季大会					竜王戦						秋季大会	県総文祭			
H35役員					副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記		
H35大会担当			春季大会					竜王戦						秋季大会	県総文祭		
H36役員						副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記	
H36大会担当				春季大会					竜王戦						秋季大会	県総文祭	
H37役員							副会長	事務局長	会計			監査		監査	事務局次長		書記
H37大会担当	県総文祭				春季大会								竜王戦				秋季大会

B 試合運営担当校・物品管理担当校担当

	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	翔洋学園	茨城	水城	水戸葵陵	清真	霞ヶ浦	土浦日大	土浦日中等	東洋大牛久
H27分担(竜王戦まで)		将棋盤駒管理						対局時計管理	
H27分担(秋季大会まで)									
H28分担(竜王戦まで)									

※秋季大会顧問会議で顧問の先生方の立会いのもと、厳正な抽選を行い、上記のH27のように決まりました。H28については将棋部会加入高校に変化がなければ、上記H28のようになり、H29以降も順次移行していきます。

※加入しない高校が出た場合は学事録配列順にずれることになります。例えば、H27に石岡一高の顧問が転勤し、生徒も退部し、将棋部がなくなって非加入となった場合は、次の順番の竜ヶ崎一高が春季大会担当校となります。

※記録係 兼 現事務局長(H26)からのお願い。
H27に担当した分担当した係は、H28に係になった担当者から、「どのような準備が必要か、当日何をすべきか、事後処理(上位大会事務局への報告等)はどうするか」等問い合わせが来ると思われるので、次年度への引き継ぎ・記録も忘れずお願いします。

○試合運営担当校・物品管理担当校担当

- 1 「秋季大会→秋季大会→竜王戦」の機具類管理、運搬
- 2 「竜王戦→県総文祭→秋季大会」の機具類管理、運搬

竜王戦以降についてはグループ内で決定します。

仮定1(H28)に海洋高が将棋部会に加入しなかった場合

→学事録で次の順番である大洗高に役割がずれ大洗が審判であるため、大洗高の分が鹿島高にずれる。

A 事務局等担当グループ

大洗がH27、H28に審判を担当したとき

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	16	17	18	28
	茨城高専	日立一	日立工	日立商	太田一	水戸一	緑岡	海洋	大洗	鹿島	土浦一	石岡一	竜ヶ崎一	竹園	古河三	並木中等	江戸川取手
H27役員		監査		監査	事務局次長		書記		審判					副会長	事務局長	会計	
H27大会担当							秋季大会	県総文祭				春季大会					竜王戦
H28役員			監査		監査	事務局次長			審判	書記					副会長	事務局長	会計
H28大会担当	竜王戦								秋季大会	県総文祭		春季大会					
H29役員	会計			監査		監査	事務局次長		書記							副会長	事務局長
H29大会担当		竜王戦							秋季大会	県総文祭			春季大会				
H30役員	事務局長	会計			監査		監査		事務局次長		書記						副会長
H30大会担当			竜王戦								秋季大会	県総文祭			春季大会		

仮定2(H28、H29)に海洋高が将棋部会に加入せず、H30には加入した場合

→3年以内は務めていなかった役員または大会担当を務める。

【案】事務局長だけは将棋部会顧問を一年以上経た者としてはどうか。

A 事務局等担当グループ

大洗がH27、H28に審判を担当したとき

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	16	17	18	28
	茨城高専	日立一	日立工	日立商	太田一	水戸一	緑岡	海洋	大洗	鹿島	土浦一	石岡一	竜ヶ崎一	竹園	古河三	並木中等	江戸川取手
H27役員		監査		監査	事務局次長		書記		審判					副会長	事務局長	会計	
H27大会担当							秋季大会	県総文祭				春季大会					竜王戦
H28役員			監査		監査	事務局次長			審判	書記					副会長	事務局長	会計
H28大会担当	竜王戦								秋季大会	県総文祭		春季大会					
H29役員	会計			監査		監査	事務局次長		書記							副会長	事務局長
H29大会担当		竜王戦							秋季大会	県総文祭			春季大会				
H30役員	事務局長	会計			監査		監査	書記	事務局次長								副会長
H30大会担当			竜王戦					秋季大会			県総文祭				春季大会		

第38回全国高等学校総合文化祭（いばらき総文2014）将棋部門 反省

放送

- 1 放送の自粛があったために、2試合目以降の開始時間が予定よりも遅くなった。
- 2 放送の自粛のため時間が遅延したと思う。しかし、対局環境整備のためにはしかたがないと思う。

ソフトウェア

- 1 決勝トーナメントを決める際に、スイス式のソフト上での同順位の取扱いについて協議されてなく、エクセルでの表示順が優先されてしまった。その結果かもしれないが、男子個人戦で茨城県が同一ブロックに固まってしまった。
- 2 対局ファイルはデフォルトのまま使用すると見にくい。枠やサイズの変更が必要。ただしEXCELの保護を解除しなければならないリスクもある。
- 3 決勝トーナメントは配置が予選順位で固定されているため、予選終了時の同順位をどのようにするかを決定しておくべきだった。茨城大会では同順位を開催県が抽選を行い、仮順位をつけた。

庶務・防犯・防災

- 1 受付やマスコミキャラクター授受、記録（写真等）、昼食確認など特に問題なく行うことができた。

審判関係

- 1 レシーバーを少なくとも審判長はもつべきである。男子団体において、千日手が発生し（同じ対局で2度千日手もあり）、審判長を探す手間が発生した。
- 2 審判長の美馬氏はトラブル対応事例を作成するなど非常に誠実に取り組んでくださったと思います。
- 3 インカムは審判員に持っていただいたほうが良かった。千日手が何局か出たが、観客が多く審判委員がすぐに見つからなかった。放送もできない会場で、大声を出し審判委員を探すことはマナー上難しい。

使用機材

- 1 レンタルのプリンターは特にカラー印刷できる必要はないと思った。電源が切れてからの再起動までの時間がかかりすぎる。
- 2 リース業者に問題があったのではない。
- 3 プリンタ等の不具合があった。設置業者が、責任を持って使えるように設置してほしい。プリンタは白黒で十分なので印刷の早いものがよい。
- 4 コンピュータ（ノートPC）・プリンター・プロジェクター・スクリーンを扱う業者リコージャパンの対応と茨城県武道館の電源について
→ 納品されたPC5台のうち1台が全く機能せず、4つの各会場のデータを集約する作業に障害を来した。また、リコージャパンによれば「ノートPCの障害対応をするのはリコージャパンではなく別業者」ということだったが、それほどこの業者なのかという問いには回答が明示されず、文化課へ報告・質問しても回答はなかった。結局、最後までノートPC1台分は使用できなかった。茨城県はこれにレンタル料金を支払うべきなのか。将棋部会事務局は文化課に伝え、正当な料金交渉をさせるべきである。
プリンターについてはまともに起動できず、基盤交換になったものがあった。一番、プリンターが必要な7月27日に、瞬間的にせよ、4台の内まともに使用できない状態になったプリンターが3台というのはあまりにもひどい。これについては、茨城県武道館の電圧が低下したため（分配過多?）ということだが、事務局は事前調査したほうがよかったのではないかと。特に女子団体会場と女子個人会場では対戦カードを印刷できず、手書きでカードを書いたり、プロジェクターで生徒に確認させるだけにせざるを得なかった対局がある【これについては強く確認した】。

決勝戦（放映・棋譜）

- 1 団体戦の決勝において、盤面をスクリーンに投影したが、女子は見学席もないため、スクリーンを見る人はいなかった。男子団体も数名であった。大盤解説があるのであれば特に投影する必要はないと思った。逆に、棋譜を見せてほしいとの希望が対局終了後に多くあったのでその取り扱いを今後の滋賀県等で検討しておくとういと思う。
- 2 結果論だがスクリーンよりも棋譜管理ソフトに入れて印刷する方に力を入れるのがよかった。

日程・規則

- 1 大会1日目の終了時刻をもう少し実態に合わせたものにすべきと思う。初めて引率する学校の先生は、予定外であり、宿舍の夕食にも影響がでると思う。男子個人は特に予選の対局時間を短くすることを全国の会議で検討すべきと考えます。
- 2 男子個人戦はどうしても長時間化するが避けようがない。持ち時間を短くすることは（プレーヤーの立場から）全国の会議で承認されるとは思えない。
- 3 囲碁の総文祭のように40分切れ負けがいいと思う。それなら時間通りに進行する。40分で切れ負けなら生徒も納得すると思います。囲碁と比べ将棋は千日手など時間が延びる要素が多く、参加選手数

が多いためにそれらが発生しやすい。

- 4 選手が力を出せる対局数は一日5局が限度。大会を半日伸ばし3日制にした方がいい。
- 5 現在の全国規則だからやむを得ないが、スイス式でも決勝トーナメントについては同県対決に配慮するのが適切だと思う。
- 6 全国の内規で17:00終了で、実態として恒常的に19:30頃に終了というのはやはり違いすぎであろう(茨城大会では19:41終了)。
- 7 1日目の進行が遅れることが予想されるなら、パンフの進行予定時間を前もって遅らせておけないものか。
- 8 1日目で敗退すると帰る学校がある。ベスト8の表彰は1日目にできないか。
- 9 対局時間は毎年大きくオーバーするため、プログラムの時間帯も変えた方がいいのではないかと。1局に1時間以上費やし、さらに組合せ作業、発表、着席までに20分以上要するため、次の対局まで90分くらいかかった。
- 10 決勝トーナメント1回戦では対局なし(シード)の選手がでるが、対局上に集合させるかどうかははっきりしていなかった。茨城大会では不戦勝でも結果報告をさせた。

【事務局注:】全国の内規で決まっているので対応は難しかったです。17:00というのは勤務時間が絡んできます。結果として遅くなるのはあっても、プログラムに明記というのは承認されにくいと思います。

決勝トーナメント同県対決は既に全国理事会で審議され「そういった調整はスイス式に思想の反することではないか」とされています。対策をするならば、全国内規改訂をした上で(開催地等の負担が重くなりますが)予選全試合終了後に全国組み合わせ会議を開催し、各地区の代表による抽選をするくらいでしょうか。

会場

- 1 対局場はゆったりしてよかったと思うが、その反面、場内の掲示が少なかった。検討すべきと思う。
- 2 使用機材(プリンタ等)が落ちて使えなかったのは、会場の使用可能な電気容量が不足したのが大きな理由であると聞いた。プレ大会ではパソコンとプリンタを1台しか使っていなかったから表面化せず、本大会では4会場それぞれ使い、他にスクリーン等も使ったことがその原因なのであろう。プレ大会で分からなかったのもやむを得ないし、分かったとしても対策をするのも難しいだろう。総文祭のためだけに茨城県武道館に工事をしろとはいえない。
- 3 プリンタトラブルの件、現代のプリンタは、100Vの電圧が来ないと印刷ができなくなっているようです。大雨落雷で、もしかして一部漏電のような状況になったのかもしれませんが(武道館もだいぶ古くなってきてますから)。弱い漏電がおおると90Vとかしか供給できずそれでだめになったものと思われます(茨城高専電気科皆藤教員より)。また電気ドラムを複数直結すると、抵抗値が大きくなるので当然100Vは出なくなります。プリンタを直接コンセントにつなげば少しですが電圧をかせげたのかもしれません。
- 4 スリッパの準備が不十分だった。土足からスリッパにしたのはよかった。変更しなかったら、初日に雷雨があったためまずいことになっていた可能性がある。
- 5 トイレの数が不足するかと思ったが足りていた。
- 6 準決勝の観戦者が多かったのもう少し机の間隔を取るべきだった。
- 7 剣道場(オセロ会場)にも工夫をしたほうがよかったかもしれない。
- 8 プロジェクターでは常に結果を提示しておき、選手に確認を促しておいたため、各回戦の最終対局者のみ確認すれば、すぐに次の作業に進むことが出来た。
- 9 パソコンが1台のため、結果の投影と作業の進行が同時にできず、苦労した。やはり投影用パソコンと、作業用パソコンは分けておいた方がよい。
- 10 決勝トーナメントでは電気系統の故障で印刷が出来なくなり、記録用紙がないまま進行した。記録がないため、結果の申告とともに、その場で選手にプロジェクターに写る結果を確認してもらった。

筆耕

- 1 大きな問題はなかったと思います。前回(長崎大会)は賞状が間に合わなかったとのこと、やはり2日目は2人体制でギリギリでした。2人でちょうど良かったと思います。書家の先生が「にじみにくい墨汁」を持ってきてくださったので、ペナントもきれいに書けました。次回も「にじみにくい墨汁」を準備されると良い旨、アドバイスができれば良いと考えます。文部科学大臣賞賞状の個人学年を入れるかの確認、ではお手数をおかけしました。すべて団体、個人の賞状写真を撮って頂きましたので、次年度はこれで対応できると思います。

マスコミ対応

- 1 地方の新聞社等から問い合わせでは、その対応余剰人員がいませんでした。これが全国都道府県から、さらに複数社から来たら対応できません。また勘違いや間違えて教えてしまったなどのトラブルの際、責任がとれませんから、いっそのこと「電話等での対応はしない」でも良いかもしれません。これはす

すべての部門でも同じことが予想され、総文祭事務局で統一見解、あるいはプレス対応を一括して引き受けてもらって、我々は事務局に結果を FAX する、で済ませられるようにできればと思いました。

会計

- 1 最終報告書の提出が全部会の中で最も早かったと将棋事務局に聞いた。お疲れ様でした。

式典

- 1 開会式・5位表彰は無難にこなせた。閉会式（表彰）が大幅に遅延したのはまずかった。函館の先生の文句はもっともだ。開始時刻12:30、終了予定は12:50、終了時間が13:25。

プログラム冊子

- 1 将棋部門の実施要綱では「12:30～13:00 閉会式」でしたが、ちらりと見た全部門の載っているパンフでは「12:10～12:50」となっていたとおもう。
- 2 大きな問題はなし。編集した先生、データチェックした先生お疲れ様でした。

遺失物

- 1 靴がなくなった事件が発生したが、所有者が判明し、昨日無事先方に届きました。茨城県スタッフのものも武道館から送っていただきました。

救護

- 1 利用者なし。病人・けが人なしでよかった。

交流会

- 1 指導対局は適切に行えた。
- 2 大盤解説の小さいほうの大盤はペンキの色が濃くて駒が見づらかった。大盤解説そのものは盛況で良かった。負けてしまった生徒が来てくれたということであろう。開催県としては最終日の工夫や演出が必要ということだと思う。
- 3 大盤解説では女子個人戦の盤が小さく見えにくかったため、プロジェクターに投影してもよかったのではと思いました。

今後

- 1 早ければ平成34年度に新人大会開催が茨城県で行われる可能性がある。今回の経験をいかして、その時の茨城県将棋部顧問団には頑張ってもらいたい。

審判団ミーティング確認事項資料（初日8時～）

★反則指摘は、あくまでも対戦相手のみ指摘可能。

（2歩を盤上に見つけた場合は、観戦者が指摘しないように注意を払う）

その他、過去トラブルとその対応方法は：別紙1参照のこと

・予選1回戦～予選4回戦の審判団体制

男子個人戦担当：浜真之

男子団体戦担当：田村健一

女子個人戦担当：鴨志田実、美馬和夫

女子団体戦担当：市野塚耕三、加藤嘉三

・初日トーナメント戦の審判団体制（20時までかかることを覚悟願います）

男子個人戦担当：浜真之

男子団体戦担当：田村健一

女子個人戦担当：美馬和夫（鴨志田実）

女子団体戦担当：加藤嘉三（市野塚耕三）

・二日目の審判&採譜体制（準決勝から決勝の予行演習を兼ね採譜）

審判：美馬和夫

男子個人戦採譜：加藤嘉三

男子団体戦大将戦採譜：市野塚耕三

女子個人戦採譜：前川教諭

女子団体戦大将戦採譜：鴨志田実

審判体制は上記を担当と致しますが、同時にトラブル発生の可能性もあるため、各自柔軟にカバーしあうことを基本と願います。

トラブル裁定が担当審判において判断が付かない場合は、審判長を呼ぶようお願いいたします。

トイレなどは対局の合間に願います。

各クラスで進行がバラバラになる可能性大です。休憩時間であっても、他のクラスでトラブル発生が多発し、大変そうであれば柔軟にご支援願います。（特に女子の部が初心者レベルが多く要注意）

別紙1

トラブルと対応事例（ここ数年で発生したトラブルと、今回発生した場合の対応指針）

- ① 時間に追われて優勢であった盤面を着手時に選手が壊してしまった。復元しようと思ったができなかった。
→盤面を崩してしまった場合には、その本人が復元して（相手が指せる状態）初めて着手完了とみなす。なので復元できなかった場合には盤面を壊してしまい選手が負けとなる。
- ② 時間に追われて、桂を成ろうとして駒を置いたが横に立ってしまった。時間がなかったのでそのまま時計を押した。2段目で成らないと反則となる手だった。
→横に立った駒では着手完了にはならず、指す前に時計を押したという事で反則負けとなる。
- ③ 引率者が対戦中の自校生徒の相手の反則（二歩等）を指摘してしまった。
→反則を指摘した人間の立場を確認し、反則によって勝ちとなる選手の引率者であれば、反則指摘を助言とみなし、逆に反則（二歩等）を行った側が反則勝ちとする。
また、第3者の立場での反則指摘であれば、反則指摘した人間に厳重注意を与え、必要により大会会場からの退場を命じる。なお対局の勝敗は審判確認のもと適正な判断を下す（基本的に反則したものが負け）。
- ④ 秒読み中、指し手が間に合わず時間が切れたが、相手も二歩を打ち、それがまだ盤上に残っていた。
→時間が切れた側が投了していれば、投了優先。投了する前に二歩を確認できれば、二歩を打った側が反則負け。（先に発生した反則を優先する）
- ⑤ 双方三段目に玉が入り、片方の選手が審判に入玉判定を要求。
→入玉規定を勘違いし、三段目に玉が入れば判定、と思っている選手は、（特に初心者クラスの多い女子団体クラス）意外に多い。双方の玉の安全度と取れる駒の有無を確認し、適宜続行を命じる。入玉の判定は審判の判断で対局を止め判定を行う。
- ⑥ 対局中に、相手を威嚇するように持ち駒をバンバン机に打ちつけるという行為があった。また盤に打ちつけた駒を手を離していないからということで何度も指したりもどしたりというマナー違反があった。
→目に余るものは「続くと失格になることもあるので気を付けるように」と注意訓告する。
→更に続くようなら、審判長により再度注意訓告を行うか、失格の判断を行う。
- ⑦ 対局中にトイレに立った選手が移動途中で顧問と話している場面に遭遇。
→厳重注意（助言レベルの内容であれば反則もありえる）。

茨城県大会、審判長注意（開会式の時の原稿）

皆さんの手元にある部門プログラムの対局規定に従い、本大会を運営致します。

詳しくは対局規定をよく読んでおいて下さい。この場ではポイントを絞って説明いたしますのでよくお聞きください。

4. 反則

対局相手に反則があった場合、反則勝ちとなります。該当者は時計を止め、すみやかに挙手して審判に申し出て下さい。各クラスに1～2名の審判を配置しています（配置の審判団に挙手願ひ、選手に確認してもらおう）

続けます。反則の指摘は対局者のみが行うことができます。観戦者は絶対に指摘しないで下さい。仮に引率者や選手と同じ学校の生徒が指摘してしまった場合には、助言扱いとなってしまいます。また両対局者の関係者以外の方が指摘してしまった場合には、その方を本会場からの退場を命ずる場合もありえますので、くれぐれもご注意のほどよろしく願いいたします。また引率者や自分の対局が終わった選手が自校の選手の試合を観戦する場合は、誤解を避けるため自校選手の視界に入らない位置で観戦して下さい。

5. 千日手

同一局面が4回発生した場合、千日手となります。時計の中段ボタンを押して時計を止め、すみやかに審判に申し出て下さい。千日手指し直し局は残り時間で指し直しとなります（時計の種別や何かの事情で左右切り替えができない場合は秒の残りは1分に切り上げ）。また2回目の千日手は抽選により勝敗を決めます。抽選方法はその時に指示致します。

6. 持将棋と判定時期

持将棋の判定は27点法、同点後手勝ちで行い、その判定は審判長が行います。現在プロ棋戦でも運用しております、「入玉宣言法」は使いませんのでご承知おき下さい。

また、対戦時間がいちじるしく経過した場合、審判長は勝負の判定をすることができることになっています。これもご承知おき下さい。

8. その他

何かトラブルが生じた場合には、時計の中段ボタンを押し、挙手して審判に申し出て下さい。

以上で対局規定の説明を終わります。

茨城県大会で発生したトラブルと実施した対応

2014.7.29 美馬和夫 記

- ① 反則に関して
 - ・確認できた範囲では、2歩、玉を取られるような指し手、自分の駒を取る、金を斜め右に引く、などが発生。選手の挙手によりその場でヒアリング及び盤上を確認し反則の判定を行った。
- ② 対局中の女子選手と引率者が互いに目と目を合わせて苦笑い
 - ・勝敗に影響するレベルではなかった、と判断し、反則扱い（助言）とは判断せず。終局後、選手の引率教諭であることを確認し、厳重に注意した。
- ③ 対局開始時に片方の選手が席にいない
 - ・いる選手に振り駒をしてもらい、先後決定を行った。
 - ・このケースで、いる選手が振り駒で先手となったが、初手を指す前に時計を押した。
→注意するに止めた（反則とまではせず）。
- ④ 予選全局終了前に飛行機の時間の都合で帰宅を希望する選手（引率者含む）が出た。
 - ・帰宅することによる、大会への影響を説明（それでも帰宅した）。
- ⑤ 手離れの悪い選手がいた
 - ・終局後、反則を取られる可能性がある旨注意した。
- ⑥ 観戦マナーに関して
 - ・視界に入る位置で自校の応援。→注意。
 - ・決勝戦で終局後、バリケード内で他局の観戦。→バリケードの外へ誘導した。
 - ・選手の椅子に手をかけ観戦。→注意。
 - ・対局に近付き過ぎての観戦（恐らくは一般の観戦者）。→近付き過ぎないように注意。
- ⑦ その他トラブルではない特記事項
 - ・勝敗報告の遅れ：感想戦を優先する両対局者や引率の先生が多く、都度「まずは報告を」と指導した。これにより報告遅れによる進行遅れは発生しなかったが、それでも初日の終局は19時40分頃になった（これは全選手の棋力向上に伴うものだと考えます）。
 - ・持将棋判定：一局発生。判定時に両選手が納得できる説明が可能な状態を待ち入玉判定を行い勝敗を決めた。
 - ・千日手：対局時計は名人戦Ⅲを使用したため、残り時間の左右入れ替え機能を用いて、指し直し局を実施。但し、切り替えを失敗したケースがあり（秒単位切り上げで設定し直し、で対応）、この操作が分かる人員をもう1～2名増やしておくべきだった。
 - ・2回目の千日手：一局発生。審判長立ち合いの下、振り駒で勝敗を決定した。方法は以下の通り。
「歩」5枚を盤上に置き、3枚裏返しにし、そのまま手の平へ移動。手の中でよくシャッフルし、盤上で手を開く。歩が出た数をカウント（立った駒は0.5）。振る順番は千日手による次の先手番から。前述のカウントで多い方が勝ちとなる。双方同点の場合は再度振り直す。また盤外に出た駒や重なった駒もカウントの対象とする。

茨城県高等学校将棋部会規約【案】

平成27(2015)年1月改訂《平成26年度第2回理事会検討用》

【現行】

第6条 本部会に次の役員をおく。
会長 1名 副会長 2名 顧問 若干名 幹事 若干名
監査 2名 理事 各校1、2名

【案】

第6条 本部会に次の役員をおく。
会長 1名 副会長 2名 顧問 若干名 幹事 若干名
監査 2名 理事 各校1、2名 **審判員 若干名**

【目的】

将棋を知らない教員が引率者になることがあるので、審判員を固定化して、審判となった者は他の役員(大会担当・事務局)等になることから外し、将棋の規則上の判断を行うことに専念する。事務局輪番制を導入することによって、将棋をあまり知らない顧問が事務局長にならざるを得ない可能性があるが、将棋の判断に関することを審判員に集め、事務局の仕事の敷居を低くすることにより、事務局を誰でもできるようにして、仕事の負担の公平化を図る。

茨城県高等学校将棋連盟主催大会規定【案】

平成27（2015）年1月改訂《平成26年度第2回理事会検討用》

〔試合参加資格〕

- 1 茨城県高等学校文化連盟主催の各種大会に参加できるのは、同連盟に加盟している高等（中等教育）学校の生徒とし、引率者は生徒の言動を指導する責任を負う。ただし、将棋部がない学校の生徒で出場希望生徒がいる場合は以下の全ての条件を満たせば出場を認める。
 - a 在籍する学校の学校長が出場を認め、事故があった場合、学校保険の対象とすることを認める。
 - b 在籍する学校の教員または保護者等が、引率者として試合時間中に会場にいて、生徒の言動を監督し責任を負う。
 - c 将棋部会の定める分担金を支払う。

〔試合方式〕

- 2 試合はノックアウトトーナメント方式（以下「トーナメント」）またはスイス式トーナメント方式（以下「スイス式」）または総当たり方式（以下「総当たり」）とする。トーナメントの1回戦で敗退した者は敗者戦を行い、大会参加者は一人最低2回以上試合をする。県代表を選出する試合はトーナメントで行うことを原則とするが、出場者数が少ないか、過去の事例を見て上位大会への出場辞退者が多い部門については総当たりやスイス式も導入する。スイス式では勝敗数が同じでも、対戦相手により獲得ポイントが変わり、上位大会出場権獲得に関わってくるので、組み合わせについては特に留意し、その際は勝敗数が同じ者で抽選を行うことも検討する。

〔試合運営〕

- 3 大会の運営の関係上、県代表の級（ブロック）は32名以内を原則とし、男子の県代表決定戦への出場申し込み者は1校3名以内とする。級種については大会毎に次のように設定し、各級への出場者数が多くなった場合は複数の組に分けて試合を行う。

春季大会（全国総文祭団体予選） A級（男子・女子） B級（男女混合）

春季大会（全国総文祭個人予選） A級（男子・女子）

B級（男子と上位大会出場権を獲得した女子）

夏季大会（高校竜王戦予選） A級 B級 C級（初心者） 【いずれも男女混合】

県総文祭大会 A級 B級 C級 D級

秋季大会（関東・全国新人予選） A級（男子・女子）

B級（男子と、女子で上位大会出場権を獲得し試合が無くなった者）

スイス式と総当たり以外の試合については敗者戦を行う。

団体戦の県代表を競う試合は登録及び出場を選手3名とし、全国大会の定める人数と同じであることを要する。団体戦の県代表を競わない試合は、男女混合2名の出場も認める。2名出場の場合は中堅と大将に固定し、2名のチーム同士で戦い、勝敗数が同じ場合は大将が勝ったチームを勝ちとする。

県総文祭大会以外のA級は県代表決定戦とする。県総文祭大会は日本将棋連盟の定める基準に基づき、段級位を認定する。認定段級位はA級は二段・初段、B級は1級～3級、C級は4級～6級、D級は7級～9級とする。また、県総文祭大会は運営に障りが出ない程度に教員の出場を認め、出場生徒の棋力向上を計る。

- 4 実績を勘案して、シード制とすることもある。
- 5 千日手などのルールは日本将棋連盟の規定に従う。
- 6 大会開催通知は大会1ヶ月前に関係方面に通知する。
- 7 大会に遅刻した者は失格もあり得る。ただし、県代表決定戦以外では、交通機関の遅れなどやむを得ない遅刻理由であると顧問会議で認められた場合、スイス式等の後から試合が継続できる試合方式で行っている時

に限り、将棋普及のため出場を認める。顧問会議は試合を始める前に行うものとし、引率者は顧問会議前に遅刻する生徒と連絡を取り、遅刻の理由を明確にして顧問会議の場に提出するものとする。引率者が顧問会議に合理的な遅刻の理由を提出できない時は該当の試合を不戦敗とし、スイス式2回戦以降についても参加を認めない。

- 8 対局の組み合わせは大会会場で番号を抽選して決める。(シード選手を除く)
- 9 同一校の選手が一回戦から対戦しないように留意する。すなわち、同一校の選手と同一ブロックなどに組み入られるような番号を引いたときは、大きい番号の選手は次のブロックなどの最小番号の他校選手と入れ替える。ただし、総当たりの場合は同一校同士の試合を初戦から行い、最終戦で不都合な調整が行われるのを防ぐ。
- 10 選手は自分の全対局が終了するまで試合場を離れてはいけない。
- 11 助言、声援などの大会の進行上、差し障りがあると判断された場合、役員は注意し、甚だしい場合には退場を命じる。
- 12 引率教員は、会場、進行、審判、記録、会計などの係を分担し、大会の円滑な運営を図る。
- 13 その他、大会運営上の諸問題については、役員会で決める。

[持ち時間]

- 14 **試合時間は対局時計数が十分にある場合、県代表決定戦では対局者にそれぞれ20分の持ち時間を与え、使いきったあとは1手30秒の秒読みとする。県代表決定戦以外は25分切れ負けとする。**

使用できる対局時計数が不足する場合は、準決勝までは、1時間以内とする。試合は40分を経過したのち、対局者にそれぞれ10分の持ち時間を与え、切れ負けとすることを原則とする。準決勝以上はそれぞれ20分の持ち時間を与え、使いきったあとは1手30秒の秒読みとすることを原則とする。持将棋差し直しは、初手より30秒以内の秒読みとする。入玉宣言法を採用し、先手の場合28点以上の持ち点、後手の場合は27点以上の持ち点を勝ちとする。

[分担金]

- 15 加盟校分担金は5千円とする。

入玉の宣言法

<宣言方法>

宣言しようとする側の手番では指さずに、「宣言します」と言い、時計を止めて対局を停止させ、(秒読み中は、時間切れ前に宣言し対局を停止する。)その時の局面が、次の条件を満たしていれば宣言した側が勝ちとなる。

<条件1>宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。

<条件2>宣言側が(大駒5点、小駒1点の計算で)

- ・先手の場合28点以上の持ち点がある。
- ・後手の場合27点以上の持ち点がある。

ただし、点数の対象となるのは玉を除く宣言側の持ち駒と敵陣三段目以内に存在する宣言側の駒のみである。

<条件3>宣言側の敵陣三段目以内の駒は、玉を除いて10以上存在する。

<条件4>宣言側の玉に王手がかかっている。(詰めろや必死であるということはない)

<条件5>宣言側の持ち時間が残っている。(切れ負けの場合)

以上一つでも条件がそろっていなかった場合、宣言した方が負けとなる。もちろん、宣言する前にどちらか片方が投了することは可能である。この規定は、どんな持ち時間制度でも適用する。

平成6（1994）年5月

- 1、 連盟主催の各種大会に参加できるのは、連盟に加盟している高校の生徒とする。
- 2、 試合はトーナメント方式とする。ただし、1回戦で敗退した者は敗者戦を行い、大会参加者は一人最低2回以上試合をする。
- 3、 大会の運営の関係上県代表のブロックは32名以内とする。その他は16名以内を1ブロックとする。ブロック名は強い順にA、B、Cとしていき、敗者戦はそれぞれD、E、Fとする。ただし、春の高校選手権大会は団体A、B、個人A、Bとし、敗者戦はそれぞれC、Dとする。この大会の個人Aへの申し込み者は1校3名以内とする。
- 4、 実績を勘案して、シード制とすることもある。
- 5、 試合時間は、準決勝までは、1時間以内とする。試合は40分を経過したのち、対局者にそれぞれ10分の持ち時間を与え、切れ負けとする。準決勝以上はそれぞれ20分の持ち時間を与え、使いきったあとは1手30秒の秒読みとする。持将棋差し直しは、初手より30秒以内の秒読みとする。入玉宣言法を採用し、先手の場合28点以上の持ち点、後手の場合は27点以上の持ち点を勝ちとする。
- 6、 千日手などのルールは日本将棋連盟の規定とする。
- 7、 その他、大会運営上の諸問題については、役員会で決める。
- 8、 大会開催通知は大会1ヶ月前に関係方面に通知する。
- 9、 大会に遅刻した者は失格もあり得る。
- 10、 対局の組み合わせは大会会場で番号を抽選して決める。（シード選手は別）
- 11、 同一校の選手が一回戦から対戦しないように留意する。すなわち、同一校の選手と同一ブロックなどに組み入れられるような番号を引いたときは、大きい番号の選手は次のブロックなどの最小番号の他校選手と入れ替える。
- 12、 選手は自分の全対局が終了するまで試合場を離れてはいけない。
- 13、 助言、声援などの大会の進行上、差し障りがあると判断された場合、役員は注意し、甚だしい場合には退場を命じる。
- 14、 引率教員は、会場、進行、審判、記録、会計などの係を分担し、大会の円滑な運営を図る。
- 15、 加盟校分担金は5千円とする。

入玉の宣言法

<宣言方法>

宣言しようとする側の手番では指さずに、「宣言します」と言い、時計を止めて対局を停止させ、（秒読み中は、時間切れ前に宣言し対局を停止する。）その時の局面が、次の条件を満たしていれば宣言した側が勝ちとなる。

<条件1>宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。

<条件2>宣言側が（大駒5点、小駒1点の計算で）

- ・先手の場合28点以上の持ち点がある。
- ・後手の場合27点以上の持ち点がある。

ただし、点数の対象となるのは玉を除く宣言側の持ち駒と敵陣三段目以内が存在する宣言側の駒のみである。

<条件3>宣言側の敵陣三段目以内の駒は、玉を除いて10以上存在する。

<条件4>宣言側の玉に王手がかかっている。（詰めろや必死であるということとは関係ない）

<条件5>宣言側の持ち時間が残っている。（切れ負けの場合）

以上一つでも条件がそろっていなかった場合、宣言した方が負けとなる。もちろん、宣言する前にどちらか片方が投了することは可能である。この規定は、どんな持ち時間制度でも適用する。

茨高文連 各部部长 殿

茨城県高等学校文化連盟会長 平野 厚
(公印省略)

平成26年度「茨城県高等学校文化連盟賞」表彰候補者の推薦について(依頼)

春寒の候、貴職におかれましては益々御清栄のことと拝察申し上げます。
日頃は、本連盟の活動並びに高校生の芸術文化活動に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。
さて、このことについて、下記のとおり「茨城県高等学校文化連盟賞」表彰候補者を御推薦くださるようお願い申し上げます。

記

- 1 推薦基準 茨城県高等学校文化連盟表彰規程のとおり
- 2 推薦書提出期日 平成27年2月5日(木) 必着
- 3 推薦書提出先 〒310-0852 水戸市笠原町1284 県立緑岡高等学校内
茨城県高等学校文化連盟事務局 担当:井川,山口
TEL 029-241-0311 FAX 029-241-7929

- 4 その他 表彰候補者推薦書は複写して御使用ください。
該当者が無い場合にもその旨、FAXで御連絡ください。

茨城県高等学校文化連盟表彰規程

(目的)

第1条 この規程は、茨城県高等学校文化連盟(以下「本連盟」と称する)の活動を通して、本県高校生の文化活動における功績が顕著な者に対し、これを表彰し、高等学校文化活動の振興及び発展に資することを目的とする。

(賞の名称)

第2条 表彰の名称は、「茨城県高等学校文化連盟賞」とする。

(選考基準)

第3条 本連盟加盟校の生徒及び団体で、各学校における文化活動において積極的に活動し、その実績が顕著で、他の生徒の模範と認められ、各部部长から特に推薦された者に贈呈する。

(推薦)

第4条 被表彰者の推薦は、次のとおりとする。

- (1) 該当者の選出方法については、各部部长に委任する。推薦数は3名以内又は3団体以内とする。
- (2) 各部部长を通して、該当者及び該当団体を別に定める様式により本連盟事務局に報告する。

(選考・決定)

第5条 被表彰者の選考は、各部部长から推薦された者を理事会で行い、本連盟会長が決定する。

(表彰)

第6条 表彰は、当該年度内に該当校で行う。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については別に定める。

付 則

この規程は、平成26年1月20日から施行する。

事務局案候補(今年度から開始/将棋部会から3名選出)

- 1 上村友大(太田一・総文祭出場・総文祭選手宣誓・全国高校竜王戦全国3位)・1年生
- 2 岩堀佳菜(土浦一・総文祭本戦出場ベスト16・総文祭選手宣誓)・2年生
- 3 中谷祥也(牛久栄進・総文祭本戦出場/昨年度総文祭5位/昨年度全国新人大会2位)・3年生
- 4 山崎英幸(翔洋・総文祭本戦出場ベスト16)・2年生
- 5 足立美桜(水戸葵陵・総文祭出場)3年
- 6 崔恵仁(水戸葵陵・総文祭出場)3年
- 7 団体(男子:江戸川学園取手高校(2年・2年・1年) または 女子:鹿島高校(全員2年))

【案】今年度の実績のみでいえば上村・岩堀・山崎だが、来年度もこの賞はあるので3年生の中谷と、岩堀・水戸葵陵高校(昨年女子団体で出場し、また今年度に足立・崔が出場することをとる。)将棋部会では3年間での実績で受賞者を選考するものとする。→中谷・岩堀・水戸葵陵高校将棋部で承認された。

【参考資料】 →このページ以降は各自で読んでください

◎役員改選・将棋部会事務局制に関するこれまでの経過

○役員改選に関する提案について（平成23年度第2回理事会資料）

- 平成23年度第2回理事会において日立工業高校から提案があり、幹事（担当大会）などは何年か交代で行うのが組織としてのあるべき姿であり、原則を決めて担当大会を割り当てたほうがよいのではないかという提案があった。現在、日立工業高校では前任の顧問からの流れを受けて数年間、秋季大会と会計を担当しているが現在部員が1名しかおらず、今後は大会の時に必ずしも来れるとは限らないという説明があった。
- 現在、設置している役員
事務局長・事務局次長・監査・幹事（春季大会担当、竜王戦担当、総文祭大会担当、秋季大会担当）、
会計、書記、理事（理事は加盟する全学校から1名以上）

○提案（平成23年度第2回理事会）

平成25年度以降は、（現在の）将棋部会加入高校の地域分布を考え、次の4地区に分けて持ち回り（2年程度で入れ替え）で役員等を担当し、どの学校が受け持つかは年度ごとに地区内で相談し決定するというのはどうか？
旧1学区 / 旧2学区 / 旧3・5学区 / 旧4学区

（例）

地域	担当大会	担当役員	事務局
旧1学区	春季大会	会計	事務局長（兼 県高文連部会理事）兼 全国将棋部会理事
旧2学区	竜王戦	書記	
旧3・5学区	総文祭大会	監査	事務局次長（兼 関東理事）
旧4学区	秋季大会	監査	

- 担当大会と担当役員・事務局は兼務しても良いが、担当役員と事務局は兼務できないものとする。事務局長は会計・監査・書記は兼ねられない。担当大会は1つまたは希望により複数担当できる。
~~監査と書記は、常時仕事があるわけではないので、盤・駒・時計・文房具・部会印等の保管も受け持つ。~~
- 竜王戦など、棋戦の性質や職務内容（将棋連盟との交渉等）によって担当大会を固定することも考える。
- （申し合わせ事項として）私学で学校長から指示がある場合は可能な限り配慮する。

○修正（平成24年度秋季大会顧問会議）→平成24年度秋季大会顧問会議で下記のことが決定された。

- 旧1・2・3学区で春季大会・竜王戦を分担する。
- 旧4・5学区で総文祭大会・秋季大会を分担する。
- 「1」「2」の中で大会の担当校は持ち回りで決定する。
- 平成25年度の大会担当校・事務局長・事務局次長は表の通り。他は平成25年度第2回理事会または平成26年度第1回理事会で定める。

○大会担当高校の行うことは次の通り

- ① 大会文書の作成・会長承認・発送（高文連事務局・加盟校）+高文連事務局に提出【追加】
- ② 大会準備（賞状と賞品の準備〈発注〉、大会出場者申込受付と名簿作成、パンフレット作成・記録個票作成
- ③ 大会当日（当日の役割の割り振り確認、進行、記録、賞状作成、）
大会後（記録〈理事会時に出席校に記録配付、デジタルデータで大会結果を事務局長に提出《上位大会・記念誌用》））

○平成 27 年度以降の事務局制度についての提案 (確認・平成 25 年度第 1 回理事会で承認済)

現事務局長は平成 26 年度で退き定時制に行き（予定）、現事務局次長も教務主任になったため将棋部会に確実に来られない。何校か打診したが、事務局を引き受けてくださる学校がない。現在の、やれる人がやるというシステムに限界がきたと考えられる。従って総文祭が終了した平成 27 年度以降は事務局輪番制に切り換えたい。現在の事務局制度については平成 26 年度までは継続するしかない。その間に案を完成させ、平成 27 年度からそのシステムを実行できるようにするべきである。

具体案

- 1 最初の輪番事務局校(平成 27 年度)は引き受け校がなければ、抽選で決める。
- 2 次年度以降は 1 年単位で学校番号の順に回す。
- 3 抽選時期は平成 26 年度の秋季大会とする。
- 4 決定した事務局予定校が次年度に将棋部会に加入しなかった場合は、その次の学校番号の将棋部会加入校を事務局として順次回す。
- 5 「4」の加入しなかった学校が、その次年度に再度加入した場合は前年度分として事務局を引き受ける。将棋部会に加入しないことで、事務局を務めなかった学校が遡って事務局を務めるのは 3 年を限度とする。
- 6 事務局を務めるのは該当校に所属する教員に限定し、保護者等が引率する加入校の場合は、事務局引き受けは次の学校に回す。
- 7 教員であっても私立学校等は学校長から役員引き受けを断わる命令が出されていることがあるため、輪番事務局グループからは除く。そのかわり将棋盤・駒・対局時計の保管、大会運営の各階級運営責任者、スイス式トーナメント用コンピュータの準備、大会当日のコンピュータ係などの業務を、輪番事務局グループ以外の学校が輪番制で分担する。

留意事項

- 1 平成 25 年度は担当大会を割り当てているので、その分は引き受け校に配慮する。
- 2 輪番事務局校は事務局長を含めた全ての役職をその対象とする。

○平成 25 年度第 1 回理事会においての結論

- ・現事務局もいつまでも継続できないので、持ち回り制を導入することを承認する。詳細は今年度中に検討する。
- ・現事務局（長）は引き継ぎが滑らかに出来るように職務内容のマニュアルを整える。

会議日 平成25年4月18日（木）

審議事項 ③平成27年度以降の事務局制に関する提案について

・欠席校や正顧問が来られなかった学校も多いので、第1回回理事会（4月18日）は提案し、質問に答えるだけにとどめた。正式な決定及び参加校からの対案の提示は、5月11日（春季大会個人戦）の顧問会議で行われる。また事務局提案の文案にわかりにくい部分があったので書き改める。口頭で示した内容として次の「1」「2」がある。

- 1 大会担当校の4校を輪番で回す。大会とは春季大会・竜王戦・総文祭大会（段級位大会）・秋季大会を指す。
- 2 「1」の4校の中で事務局長・事務局次長を選ぶ。

【新規提案】「会計（1名）・書記（1名）・監査（2名）」の回し方について明記していませんでした。「1」「2」の4校に加え、「会計（1名）・書記（1名）・監査（2名）」を加えた8校を選びたいと思います。ただし、現在、「監査」等で行っている棋具管理等の本来の名称以外の職務は、事務局輪番以外の輪番担当校で行うことにしたいと思います。会計は会計処理、書記は顧問会議の議事録整理、監査は理事会前の会計監査のみを行うことにするという事です。事務局長・事務局次長は大会運営について理解していないと努めることが難しいので、「事務局長・事務局次長は大会担当校の4校から選ぶ」ことは変えないことを提案します。この2点等を加えた修正提案を別紙で提示します。

審議事項 ⑥ 平成25年度事業計画案の検討

・春季大会文書を検討し、参加資格の所を「高等学校」から今後は「中等学校の後期課程」も含めてほしい、と並木中等学校から指摘を受けた。竜王戦以降の公文書は「高等学校及び中等学校後期課程」と修正することになった。

○平成 27 年度以降の事務局制度についての提案（修正案）

【平成 26 年 1 月現在、これが最終的なものになっています】

現事務局長は平成 26 年度で退き定時制に行き（予定）、現事務局次長も教務主任になったため将棋部会に確実には来られない。何校か打診したが、事務局を引き受けてくださる学校がない。現在の、やれる人がやるというシステムに限界がきたと考えられる。従って総文祭が終了した平成 27 年度以降は事務局を輪番制に切り換えたい。現在の事務局制度については平成 26 年度（いばらき総文 2014 実施年度）までは継続するしかない。それまでに案を完成させ、平成 27 年度からそのシステムを実行できるようにするべきである。

具体案

1. 輪番制について

茨城県高等学校文化連盟将棋部会に関する職務をいくつかの係に分け、輪番制で担当し、将棋部会加入校の負担の公平化を図る。

2. 分担する職務について

将棋部会加入校を、事務局担当校と試合運営主要担当校の 2 グループに分ける。主要な担当は次のようにする。

○事務局担当校グループ（原則として県立高等学校等）

- ・事務局長、事務局次長と大会運営担当校（春季大会担当・竜王戦担当・総文祭〔段級位認定大会〕担当・秋季大会担当の計 4 校）、会計（1 名）、書記（1 名）、監査（2 名）を担当する。理事会資料の役員一覧に記名される係はこのグループが担当する。事務局長、事務局次長は大会担当校の中から選任する。
- ・大会運営担当校は各大会で準備する要項や、対戦表、記録用個票等該大会のみで使用するものを準備すること、大会全体を采配すること、大会の記録を整理して事務局長に届け、事務局長が定められた日までに上位大会（全国・関東）事務局にデータの提出ができるようにすることを職務とする。

○試合運営主要担当校グループ（原則として私立高等学校等）

- ・事務局担当校グループが担当する職務以外の職務はこのグループが全て担当する。試合に必要な棋具（将棋盤・将棋駒・試合用時計〔電池を含む〕）と、その他の試合用品（文房具・賞状・賞状押印用事務局印・試合用賞品・試合運営用コンピュータ等）を管理する。管理には、試合日以外の管理と試合当日の試合会場への運搬、試合会場から管理場所への運搬を含む。管理場所は該校の校内を原則とする。各大会で準備する要項や、対戦表、記録用個票等は、事務局担当校グループの大会担当校が準備するが、各大会で共通して用いる道具類は試合運営主要担当校グループが担当することを原則とする。
- ・試合当日は大会の各階級・各組の責任者として大会運営担当校に協力し、担当階級・各組の結果を大会運営担当校に報告する。
- ・試合運営用コンピュータは平成 26 年度中までに部会で購入することを原則とするが、予算的に間に合わなかった場合は該校内で調達する。

3. 事務局及び試合運営主要担当の担当者について
事務局及び試合運営主要担当を務めるのは該当校に勤務する教員に限定し、保護者等が引率する加入校の場合は、事務局等の引き受けは輪番の次の学校に回す。将棋部会加入校教員であっても、私立学校等は学校長から役員引き受けを断わる職務命令が出されていることがあるため、輪番事務局グループからは除き、試合運営主要担当校グループに分類することを原則とする。
4. 事務局等予定校の不加入の場合について
決定した予定校（事務局担当校及び試合運営主要担当校のどちらも）が、次年度に将棋部会に加入しなかった場合は、その次の学校番号の将棋部会加入校を担当校として順次回す。この加入しなかった学校が次年度以降に再度加入した場合は、過年度分として事務局を引き受けるものとする。将棋部会に加入しないことで、事務局を務めなかった学校が遡って事務局を務めるのは3年を限度とする。
5. 最初の輪番事務局校及び運営主要担当校(平成27年度)は引き受け校がなければ、抽選で決める。
6. 次年度(平成28年度)以降は1年単位で学校番号の順に回す。
7. 「5」の抽選時期は平成26年度の秋季大会とする。
8. 平成25年度は担当大会を割り当てているので、その分は引き受け校に配慮する。平成26年度も同様にする。

平成26年度将棋部会加盟校及び顧問名

学校名	顧 問 名		理事会出席校
日 立 一	鈴 木 純 子	青木睦人 / 川崎義広	欠席
日 立 工	関 根 理 恵 子		欠席
日 立 商	中 村 秀 子	及 川 あ か り	出席
太 田 一	中 郡 久 夫	堀江信人 / 原田正剛	出席
水 戸 一	大 山 雅 道		出席 (会場校)
緑 岡	山 田 健 二	斧 田 並 枝	欠席
石 岡 一	矢 須 雅 進	山田英夫 / 野尻美紀子	出席
海 洋	櫻 井 三 夫	大 津 昌 行	出席
大 洗	藤 崎 正 輝	菊 池 智 子	出席
波 崎	黒 澤 義 生		欠席
鹿 島	前 川 匡 史	亀 田 拓	欠席
土 浦 一	幕 内 研 司	土 子 亮 / 井 川 裕 司	出席
竜ヶ崎 一	吉 田 真 弘	荒井豊水 / 鈴木恒一	出席
竹 園	坂 入 勝 雄	南 指 原 浩 信	出席
並木中等教育	佐 藤 康		出席
牛久栄進	保 護 者		欠席
古 河 三	増 渕 禎 志	大 河 原 容 子	出席
水 戸 葵 陵	今 井 健 二	小 沼 恵	出席
茨 城	原 健 一		出席
水 城	宮 城 晶 軌	小 賀 柳 一	欠席
東 洋 大 牛 久	吉 村 智 雄	中 島 穂 高	出席
茨 城 高 専	皆 藤 新 一	鈴 木 康 司	欠席
土 浦 日 大	安 齊 隆	粂 山 晴 伸	欠席
霞ヶ浦	江 幡 収 一		欠席
翔 洋 学 園	早 川 大 祐	保 護 者	欠席
清 真	出 口 洋 一	八 木 清	欠席
江戸川学園取手	桑 原 昭 之		欠席
土浦日大中等教育学校	豊 島 雪 乃		出席

※左端に書かれている方が将棋部会加入校の理事となります。